7 キャンパス等充実に関する事項

1 施設・設備・備品等について

本学における施設・設備・備品等は、長期計画による教育・研究・エクステンション等の諸施策に則し、長期財政計画と各キャンパスの立地条件を踏まえながら計画的に整備していくこととしている。第5次長期計画における新たな取り組みが円滑に遂行されるよう、各キャンパス及び設置学部の特長、地域性、キャンパスの歴史等を勘案しつつ、次の視点に基づき整備している。

- ①本学が展開する多様な教学活動を支え、その効果が十分あげられるよう整備する。
- ②学術研究・諸科学の発達に十分対応し得るよう、計画的に整備する。
- ③「課外活動基本方針」に基づき、学生の意見を聞きながら計画的に課外活動施設等を整備する。
- ④施設・設備等を地域社会に開放し、地域社会に貢献するキャンパス創りを目指す。
- ⑤大学構成員の意見を聞きながら施設・設備を充実し、これらを含めたキャンパスアメニティの向上に努める。
- ⑥すべての施設のバリアフリー化を目指す等、障がいを持つ方にとっても快適な環境を整備する。
- ⑦教学活動や学生生活を積極的に支援する立場から、施設・設備・備品等の管理責任体制を明確にし、適切な維持・管理に努める。

1 深草学舎における施設・設備・備品等の整備

●衛生設備の充実

感染症予防対策として、各洗面所の自動水栓化及びハンドドライヤー設置を2009年度から4ヵ年計画で実施している。2010年度は48カ所の洗面所を整備し、衛生環境の向上に取り組む。

●施設設備の省エネ改修

2009年度（3号館）に引き続き、2号館、4号館の省エネ対策工事（照明器具取替、空調のインバータ制御、遮熱フィルム）を実施する。また、3ヵ年事業の最終年として、経年劣化が著しい紫光館の空調設備を改修する。

●施設設備の更新

中央監視システムを4ヵ年にわたって改修し、深草学舎のみならず、紫光館、至心館、大宮学舎の遠隔監視の足掛かりを築き、合理的で効率の良いエネルギー管理を目指す。また、6号館、体育館、龍谷会館の高圧受電設備の更新や、6号館の搬送用エレベータ更新等を行い、安全で快適な環境を整備する。

●バリアフリー化の促進

バリアフリー化推進事業として、教学部入り口と21号館多目的トイレの扉を自動扉に改修するなど、全ての施設のバリアフリー化を目指し、快適な環境を整備する。

2 大宮学舎における施設・設備・備品等の整備

●教育研究・課外活動等の環境整備

2011年春のオープンを目指し、引き続き龍谷ミュージアムの建設に取り組むほか、大宮学舎の教育研究・課外活動等の環境保全に努める。また、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された場合は、清風館南校地への研究新棟の建設を進める。

●施設・設備の更新

経年劣化が著しい東麓103号教室を改修し、音響効果をはじめとする機能の改善を図るほか、東麓3階演習室の防音扉を設置する等、教育環境の改善を行う。

●衛生設備の充実

感染症予防対策として、各洗面所の自動水栓化及びハンドドライヤー設置を2009年度から4ヵ年計画で実施している。2010年度は23カ所の洗面所を整備し、衛生環境の向上に取り組む。また、西麓1・2階トイレのウォシュレット設置も併せて行う。

3 瀬田学舎における施設・設備・備品等の整備

●省エネルギー対策工事

2・3・4号館の照明器具を省エネルギー対応の器具に改修するとともに、各研究室及び事務室に網戸を設置し、省エネルギー推進を図る。

●学習環境改善対策工事

3号館101及び102講義室の給排気設備を改修し、快適な学習環境の整備を図る。

●理工学部・理工学研究科の教育研究装置及び特別研究設備の整備

理工学部・理工学研究科の教育・研究に使用される「理工学部専門情報処理教育装置」及び「超先端微細電子デバイス特性評価装置」を調達・整備する。

●アスレティック・リハビリテーション機器の整備

瀬田学舎トレーニングルーム内に、スポーツ系サークルに所属する学生等の故障から競技復帰までの機能回復を目的としたアスレティック・リハビリテーション機器を調達し、深草と同等機能の設備を整備する。

●食堂・喫茶厨房機器の整備

瀬田学舎厚生施設（青雲館・青志館・RECホール）の食堂・喫茶厨房機器を更新し、厚生施設の充実を図る。

2 情報システム関係について

2010年度はIPネットワークを介した情報教育をさらに展開するため、基幹ネットワークの更新を実施する。構築に当たっては、技術的に安全であることを前提として効果的・効率かつコストパフォーマンスを考慮したネットワーク構築計画を策定し、構築を進める。

利用者と大学を結ぶ情報コミュニケーション基盤整備を進めるため、クラウドサービス（外部リソースの活用）

を試行的に教職員から先行して利用する。また、2009年度から要件定義のための検討を重ねた事務システムのリプレースを開始し、事務作業効率の向上と、さらなる情報の有効活用を図る。具体的には、次のような事業を推進する。

1 基幹ネットワークの整備

● 龍谷大学基幹ネットワークの構築（更新）

インターネット上ではクラウドサービスが注目され、龍谷大学ネットワークにおいてもそのような学外と多量の通信を見据えた広帯域化及びIPv6も利用が可能となる機材を導入し、高速かつ安定したネットワークを構築する。

● クラウドサービスの導入

インターネット上でサービスを提供しているGoogle Apps等のコミュニケーションツール（クラウド）システムを利用し、メールシステムの強化拡充を図る。2010年度は、セキュリティやウィルス対策に留意しつつ、教職員を対象に取り組み、年次事業として順次学生にも対象範囲を広げていく。

2 情報教育環境の整備

● 情報教育システムのリプレース

情報教育システムのリプレースを2009年8月に実施し、3学舎統一した情報教育環境を整備した。大宮学舎清風館情報実習室の新設、クライアント数増加など、より学生と教員の利便性を考慮した情報教育環境の拡充を進めた。今後必要とされる学内のユビキタス環境の整備や、セキュリティ対策も意識した情報教育環境の充実に向けて引き続き整備する。

● マルチメディア教育環境整備

多様なメディア機器を利用した効果的な授業の推進と継

続的な情報教育基盤整備を図るためマルチメディア教育環境整備を継続して行う。

- ・ 普通教室マルチメディア教育環境改善（2007～2010年度の4カ年事業）の最終年度として普通教室の整備を行う。
- ・ ゼミ室マルチメディア教育環境整備については、3学舎48室で試行的に2009年度に導入し、成果を得ている。今後は、PC等の利用状況を見て、引き続き整備を行っていく。

● 情報教育リテラシー支援プログラム

教育改善の対応策として、全学共通の情報教育リテラシー支援プログラムを充実させ、継続して実施する。学生の情報教育リテラシー理解度を確認しつつ、その向上に向けた円滑な授業運営を支援する。

3 事務システムの整備

● 事務システムのリプレース

事務システム要件定義による分析を基に迅速で確実かつ効率的な業務遂行を通じて、教育・研究支援ならびに法人業務の支援をより充実させるため、2011年度の稼働を目指した事務システムのリプレースを行う。新システムでは、業務支援のみならず安定的な稼働と利用者の利便性向上を目指し、学生自らが情報を享受できる試みも構築計画に入れ推進する。

● 学生証のICカード化

学生証カードの仕様は、1997年度に従来の紙様式から磁気カードに変更し、今日に至っている。現在、身分証明書としての利用のほか、内蔵の磁気情報をもとに、図書館や施設への入館、証明書自動発行機などで利用している。今般、より多くの情報量を保有でき、将来的に、入退館ゲート、出欠管理や購買管理をはじめとする各種サービスへの展開が可能なICカード（非接触タイプ）に変更し、2010年度末より全学生を対象に配付する。